田布施町地球温暖化対策実行計画における
温室効果ガスの総排出量削減状況について

≪第３期実行計画４年目≫

令和６年１月

田布施町

目　　次

Ⅰ　はじめに ･･･ 1
Ⅱ　地球温暖化問題の概要 ･･･ 1
Ⅲ　田布施町地球温暖化対策実行計画における確認事項 ･････････････････････ 1
　１．計画策定の目的 ･･･ 1
　２．計画期間と基準年度 ･･･ 2
　３．計画の対象 ･･･ 2
　４．基準年度の二酸化炭素排出量 ･････････････････････････････････････ 3
　５．要因別の排出状況 ･･･ 3
　６．削減目標 ･･･ 4
Ⅳ　排出量及び活動量の進捗状況 ･･･････････････････････････････････････ 4
　１．二酸化炭素排出量及び二酸化炭素排出量基準年度比較表 ･･････････････ 4
　２．年度別使用量及び使用量基準年度比較表 ･･････････････････････････ 6
　３．調査項目別使用量の推移及び二酸化炭素排出量の推移 ･･････････････ 7
Ⅴ　実行計画の推進及び評価、点検、公表 ･･････････････････････････････ 10
　１．推進管理体制 ･･･ 10
　２．目標達成のための評価 ･･･ 10
　３．推進責任者による評価 ･･･ 11
　４．公表 ･･･ 13
Ⅵ　おわりに ･･･ 13

Ⅰ　はじめに

地球温暖化は、大気中の二酸化炭素（CO_2）などの濃度が増加することで起こります。大気中のCO_2濃度は毎年増え続けており、今後も増加すると予想されています。現在、私たちの使っている電気の大部分は、化石燃料を燃やして作られており、電気を使うとCO_2が発生するため、「節電」は地球温暖化対策の側面からも重要なテーマです。

産業界においては、徹底した省エネやエネルギー転換などが行われており、さらに政府では再生可能エネルギーなどを活用促進する計画が進められています。

本町では、平成２２年(2010 年)３月に「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、町の事務及び事業に関し、温室効果ガスの排出量の削減等の措置に関する計画として、「田布施町地球温暖化対策実行計画」を策定いたしました。本計画は、温室効果ガス削減に向けて、地球温暖化対策を総合的かつ計画的に進め、温暖化防止に貢献することを目的としています。

本町においては、平成３０年(2018 年)度を基準年度とし、令和５年(2023 年)度までに温室効果ガスを４．０％削減することを目標に様々な取組を行ってまいりました。今後も、自らの事務及び事業内容の改善や、環境にやさしい取組を積極的に取り入れ、事業所等の模範となるよう計画を遂行していきます。

田布施町地球温暖化対策推進本部長　　東　浩　二

Ⅱ　地球温暖化問題の概要

地球温暖化とは、人間活動によって大気中の温室効果ガス（二酸化炭素など）が増加し、本来は宇宙へと逃げていくべき地球放射熱が温室効果ガスに吸収され、地球に留まることにより、地球上の温度が上昇する現象です。

急激な気温の上昇に伴う地球環境への影響としては、①海面水位の上昇に伴う陸域の減少、②豪雨や干ばつなどの異常気象の増加、③生態系への影響や砂漠化の進行、④農業生産や水資源の影響、⑤マラリアなどの熱帯性感染症の発症数の増加などが挙げられており、私たちの生活へ甚大な被害が及ぶ可能性が指摘されています。

Ⅲ　田布施町地球温暖化対策実行計画における確認事項

令和元年(2019 年)９月に策定した、第３期田布施町地球温暖化対策実行計画（以下「実行計画」という。）に定めた、第１章の基本的事項は以下のとおりです。

１．計画策定の目的

地球温暖化対策の推進に関する法律第２０条の３第１項に基づき、都道府県及び市町村が義務づけられている温室効果ガスの排出量の削減のための措置に関する計画として策定するものであります。本町の事務及び事業の実施にあたっては、本計画に基づき温室効果ガス排出量の削減目標の実現に向けてさまざまな取組を行い、地球環境への負担軽減を全庁的に推進することによって、持続可能な社会の構築を目指します。

２．計画期間と基準年度

計画期間は、令和元年(2019 年)度～令和５年(2023 年)度までの５年間とします。ただし、計画に掲げる削減目標の基準年度は、平成３０年(2018 年)度とします。

３．計画の対象

（１）対象範囲と対象機関

本町が実施するすべての事務・事業を対象とします。また、町長部局、町議会事務局、教育委員会部局を対象機関とし、次の表の公共・公用施設とします。

町長部局		教育委員会部局	
本庁	総務課	本庁	学校教育課
	企画財政課		社会教育課
	経済課	学校	城南小学校
	建設課		東田布施小学校
	会計室		田布施西小学校
	町民福祉課		麻郷小学校
	健康保険課		田布施中学校
	税務課		給食センター
公立保育園	城南保育園	公民館	中央公民館
	麻里府保育園		城南公民館
麻郷福祉会館			東田布施公民館
町議会事務局			西田布施公民館
			麻郷公民館
			麻里府公民館
		図書館	
		郷土館	
		スポーツセンター	

（２）対象とする温室効果ガス

法が対象とする温室効果ガスは、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六ふっ化硫黄、三ふっ化窒素（※H27.4.1 から追加）の７種類ですが、実行計画では、排出割合の大部分を占める二酸化炭素を対象とします。

４．基準年度の二酸化炭素排出量

基準年度（平成３０年(2018年)度）における、町の事務、事業に係る二酸化炭素排出量は、822,417kg-CO_2でした。

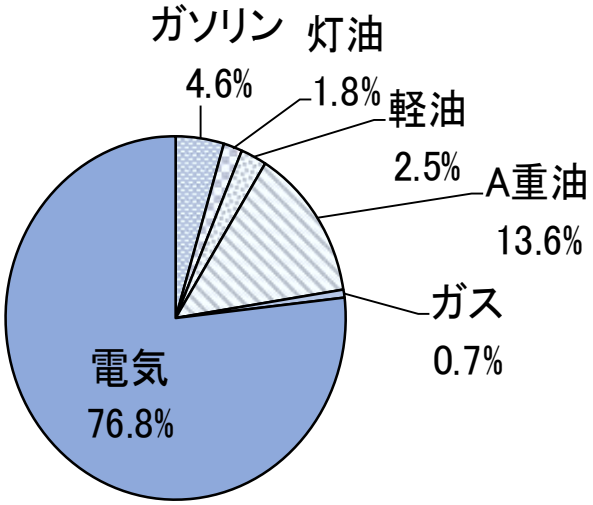
調査項目		単位	使用量	排出係数	単位	二酸化炭素排出量
燃料使用量	ガソリン	ℓ	16,300	2.32	kg／ℓ	37,816kg
	灯油	ℓ	5,871	2.49	kg／ℓ	14,619kg
	軽油	ℓ	7,891	2.58	kg／ℓ	20,359kg
	A重油	ℓ	41,400	2.71	kg／ℓ	112,194kg
	ガス（ＬＰＧ）	m^3	1,938	3.00	kg／m^3	5,814kg
電気使用量		KWh	1,273,417	0.496	kg／KWh	631,615kg
				基準年度排出量		822,417kg-CO_2

※温室効果ガス排出量の算定方法

燃料・電気使用量×排出係数×地球温暖化係数（CO_2は１）＝温室効果ガス排出量（二酸化炭素）

５．要因別の排出状況

基準年度である平成３０年(2018 年)度の本町における二酸化炭素排出量を排出要因別に見ると、電気の排出量が全体の７６．８％を占め、次いでＡ重油の使用量が１３．６％、併せて９０．４％を占めています。



６．削減目標

二酸化炭素排出量を計画期間の最終年度である令和５年(2023年)度までに、基準年度（平成３０年(2018年)度）と比較して４．０％削減することを目標とします。

＜ 項目別の使用量等の削減目標（４．０％）＞

項　目	平成30年(2018年)度		令和5年(2023年)度	
	使　用　量	二酸化炭素排出量	使　用　量	二酸化炭素排出量
ガソリン	16,300 ℓ	37,816 kg	15,648 ℓ	36,303 kg
灯油	5,871 ℓ	14,619 kg	5,636 ℓ	14,034 kg
軽油	7,891 ℓ	20,359 kg	7,575 ℓ	19,544 kg
Ａ重油	41,400 ℓ	112,194 kg	39,744 ℓ	107,706 kg
ガス(ＬＰＧ)	1,938 m^3	5,814 kg	1,860 m^3	5,580 kg
電気使用料	1,273,417 KWh	631,615 kg	1,222,480 KWh	606,350 kg
合計		822,417 kg-CO_2		789,517 kg-CO_2

Ⅳ　排出量及び活動量の進捗状況

１．二酸化炭素排出量及び二酸化炭素排出量基準年度比較表

基準年度（平成３０年(2018 年)度）

調　査　項　目		単位	使用量	排出係数	単　位	二酸化炭素排出量
燃料使用量	ガソリン	ℓ	16,300	2.32	kg／ℓ	37,816 kg
	灯油	ℓ	5,871	2.49	kg／ℓ	14,619 kg
	軽油	ℓ	7,891	2.58	kg／ℓ	20,359 kg
	Ａ重油	ℓ	41,400	2.71	kg／ℓ	112,194 kg
	ガス（ＬＰＧ）	m^3	1,938	3.00	kg／m^3	5,814 kg
電気使用量		KWh	1,273,417	0.496	kg／KWh	631,615 kg
				平成30年度排出量		822,417 kg-CO_2

実行計画１年目（令和元年(2019 年)度）

調　査　項　目		単位	使用量	排出係数	単　位	二酸化炭素排出量
燃料使用量	ガソリン	ℓ	14,731	2.32	kg／ℓ	34,176 kg
	灯油	ℓ	5,215	2.49	kg／ℓ	12,985 kg
	軽油	ℓ	7,976	2.58	kg／ℓ	20,578 kg
	Ａ重油	ℓ	35,900	2.71	kg／ℓ	97,289 kg
	ガス（ＬＰＧ）	m^3	1,771	3.00	kg／m^3	5,313 kg
電気使用量		KWh	1,186,455	0.462	kg／KWh	548,142 kg
				令和元年度排出量		718,483 kg-CO_2

実行計画２年目（令和２年(2020 年)度）

調　査　項　目		単位	使用量	排出係数	単　位	二酸化炭素排出量
燃料使用量	ガソリン	ℓ	11,786	2.32	kg／ℓ	27,344 kg
	灯油	ℓ	7,346	2.49	kg／ℓ	18,292 kg
	軽油	ℓ	6,659	2.58	kg／ℓ	17,180 kg
	Ａ重油	ℓ	38,100	2.71	kg／ℓ	103,251 kg
	ガス（ＬＰＧ）	m^3	1,502	3.00	kg／m^3	4,506 kg
電気使用量		KWh	1,181,091	0.445	kg／KWh	525,585 kg
				令和２年度排出量		696,158 kg-CO_2

実行計画３年目（令和３年(2021 年)度）

調　査　項　目		単位	使用量	排出係数	単　位	二酸化炭素排出量
燃料使用量	ガソリン	ℓ	12,369	2.32	kg／ℓ	28,696 kg
	灯油	ℓ	4,646	2.49	kg／ℓ	11,569 kg
	軽油	ℓ	8,330	2.58	kg／ℓ	21,491 kg
	Ａ重油	ℓ	37,700	2.71	kg／ℓ	102,167 kg
	ガス（ＬＰＧ）	m^3	1,702	3.00	kg／m^3	5,106 kg
電気使用量		KWh	1,241,905	0.433	kg／KWh	537,745 kg
				令和３年度排出量		706,774 kg-CO_2

実行計画４年目（令和４年(2022 年)度）

調　査　項　目		単位	使用量	排出係数	単　位	二酸化炭素排出量
燃料使用量	ガソリン	ℓ	12,748	2.29	kg／ℓ	29,193 kg
	灯油	ℓ	5,585	2.50	kg／ℓ	13,963 kg
	軽油	ℓ	7,044	2.62	kg／ℓ	18,455 kg
	Ａ重油	ℓ	38,900	2.75	kg／ℓ	106,975 kg
	ガス（ＬＰＧ）	m^3	1,579	2.99	kg／m^3	4,720 kg
電気使用量		KWh	1,249,279	0.434	kg／KWh	542,187 kg
				令和４年度排出量		715,493kg-CO_2

二酸化炭素排出量基準年度比較表　　（単位：kg-CO2）

調査項目	二酸化炭素排出量						
	平成30年度（基準年度）	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度		令和５年度
						基準年度からの増減量	
ガソリン	37,816	34,176	27,344	28,696	29,193	▲8,623	
灯油	14,619	12,985	18,292	11,569	13,963	▲656	
軽油	20,359	20,578	17,180	21,491	18,455	▲1,904	
Ａ重油	112,194	97,289	103,251	102,167	106,975	▲5,219	
ガス（ＬＰＧ）	5,814	5,313	4,506	5,106	4,720	▲1,094	
電気使用料	631,615	548,142	525,585	537,745	542,187	▲89,428	
合　計	822,417	718,483	696,158	706,774	715,493	▲106,924	

２．年度別使用量及び使用量基準年度比較表

基準年度（平成３０年(2018 年)度）

調査項目	単位	本庁他	福祉会館	保育園(2)	小学校(4)	中学校	給食センター	公民館(6)	図書館	郷土館	スポーツセンター	合計
ガソリン	ℓ	14,908	0	0	0	91	473	0	159	0	669	16,300
灯油	ℓ	1,131	0	1,951	2,279	510	0	0	0	0	0	5,871
軽油	ℓ	598	0	0	5,998	0	1,295	0	0	0	0	7,891
Ａ重油	ℓ	0	0	0	0	0	41,400	0	0	0	0	41,400
ガス(LPG)	m^3	64	3	514	42	65	1,071	173	5	0	1	1,938
電気	kw	356,802	9,298	47,463	243,477	215,370	89,231	114,652	46,840	44,900	105,384	1,273,417

実行計画１年目（令和元年(2019 年)度）

調査項目	単位	本庁他	福祉会館	保育園(2)	小学校(4)	中学校	給食センター	公民館(6)	図書館	郷土館	スポーツセンター	合計
ガソリン	ℓ	13,558	0	0	0	65	228	0	169	0	711	14,731
灯油	ℓ	549	0	2,244	1,919	503	0	0	0	0	0	5,215
軽油	ℓ	674	0	0	6,238	0	1,064	0	0	0	0	7,976
Ａ重油	ℓ	0	0	0	0	0	35,900	0	0	0	0	35,900
ガス(LPG)	m^3	62	1	508	36	54	961	147	1	0	1	1,771
電気	kw	306,624	9,013	45,565	248,454	195,120	84,634	107,039	41,640	46,279	102,087	1,186,455

実行計画２年目（令和２年(2020 年)度）

調査項目	単位	本庁他	福祉会館	保育園(2)	小学校(4)	中学校	給食センター	公民館(6)	図書館	郷土館	スポーツセンター	合計
ガソリン	ℓ	10,372	0	0	0	265	307	0	151	0	691	11,786
灯油	ℓ	947	0	2,214	2,750	1,135	0	0	0	0	0	7,346
軽油	ℓ	402	0	0	5,165	0	1,092	0	0	0	0	6,659
Ａ重油	ℓ	0	0	0	0	0	38,100	0	0	0	0	38,100
ガス(LPG)	m^3	76	0	544	17	44	772	44	2	0	3	1,502
電気	kw	330,138	8,278	52,357	259,670	194,046	90,245	86,916	45,362	37,337	76,746	1,181,091

実行計画３年目（令和３年(2021 年)度）

調査項目	単位	本庁他	福祉会館	保育園(2)	小学校(4)	中学校	給食センター	公民館(6)	図書館	郷土館	スポーツセンター	合計
ガソリン	ℓ	10,986	0	0	0	314	316	0	151	0	602	12,369
灯油	ℓ	769	0	2,953	602	322	0	0	0	0	0	4,646
軽油	ℓ	575	0	0	6,458	0	1,297	0	0	0	0	8,330
Ａ重油	ℓ	0	0	0	0	0	37,700	0	0	0	0	37,700

ガス (LPG)	㎥	73	1	544	25	31	965	46	5	0	2	1,702
電気	kw	339,308	8,020	56,690	311,504	188,808	97,820	102,683	43,801	35,254	58,017	1,241,905

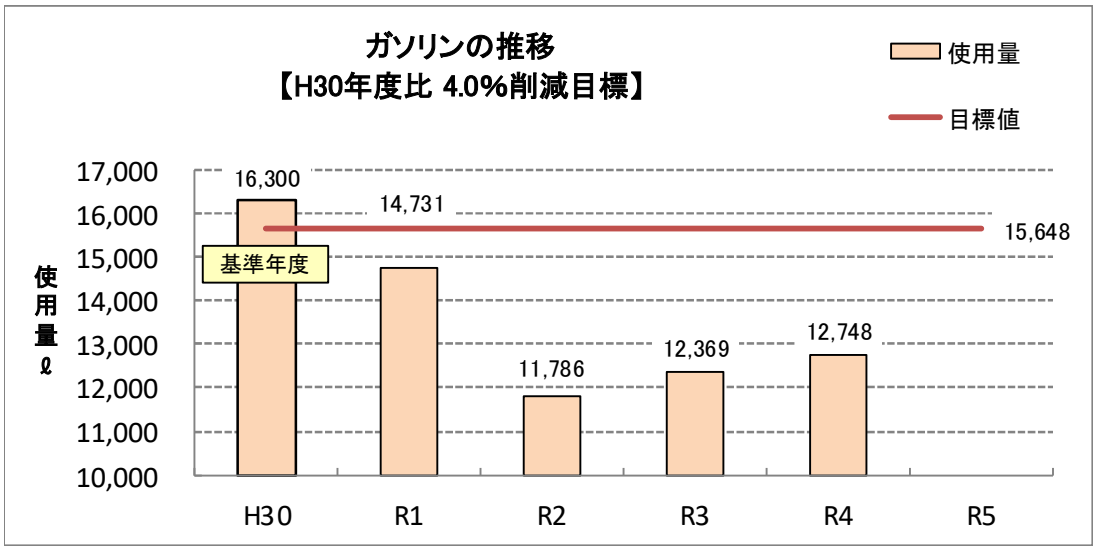
実行計画４年目（令和４年(2022 年)度）

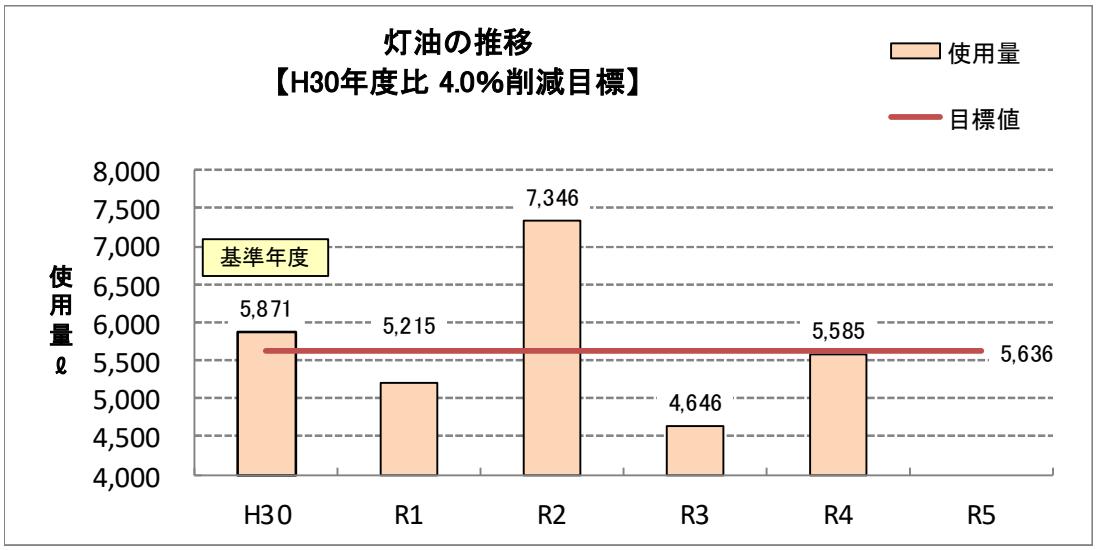
調査項目	単位	本庁他	福祉会館	保育園(2)	小学校(4)	中学校	給食センター	公民館(6)	図書館	郷土館	スポーツセンター	合計
ガソリン	ℓ	11,407	0	0	0	202	333	0	173	0	633	12,748
灯油	ℓ	1,024	0	3,334	801	426	0	0	0	0	0	5,585
軽油	ℓ	574	0	0	5,339	0	1,131	0	0	0	0	7,044
Ａ重油	ℓ	0	0	0	0	0	38,900	0	0	0	0	38,900
ガス (LPG)	㎥	82	10	513	34	71	832	32	3	0	2	1,579
電気	kw	308,485	9,818	59,976	335,572	178,070	95,309	113,417	42,642	37,576	68,414	1,249,279

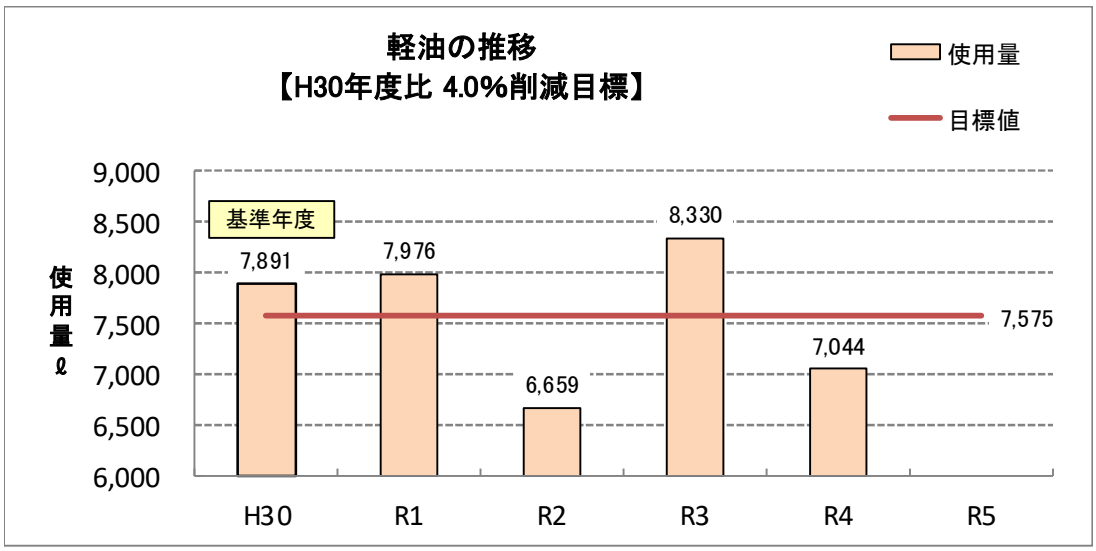
使用量基準年度比較表

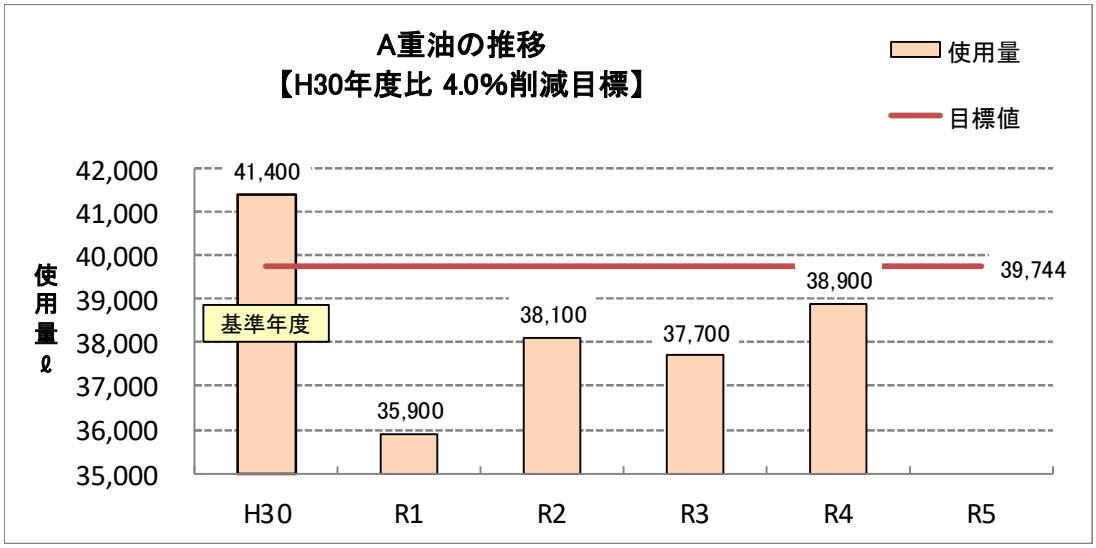
調査項目	単位	使用量						
		平成30年度(基準年度)	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度		令和５年度
							基準年度からの増減量	
ガソリン	ℓ	16,300	14,731	11,786	12,369	12,748	▲3,552	
灯油	ℓ	5,871	5,215	7,346	4,646	5,585	▲286	
軽油	ℓ	7,891	7,976	6,659	8,330	7,044	▲847	
Ａ重油	ℓ	41,400	35,900	38,100	37,700	38,900	▲2,500	
ガス(LPG)	㎥	1,938	1,771	1,502	1,702	1,579	▲359	
電気使用量	kW	1,273,417	1,186,455	1,181,091	1,241,905	1,249,279	▲24,138	

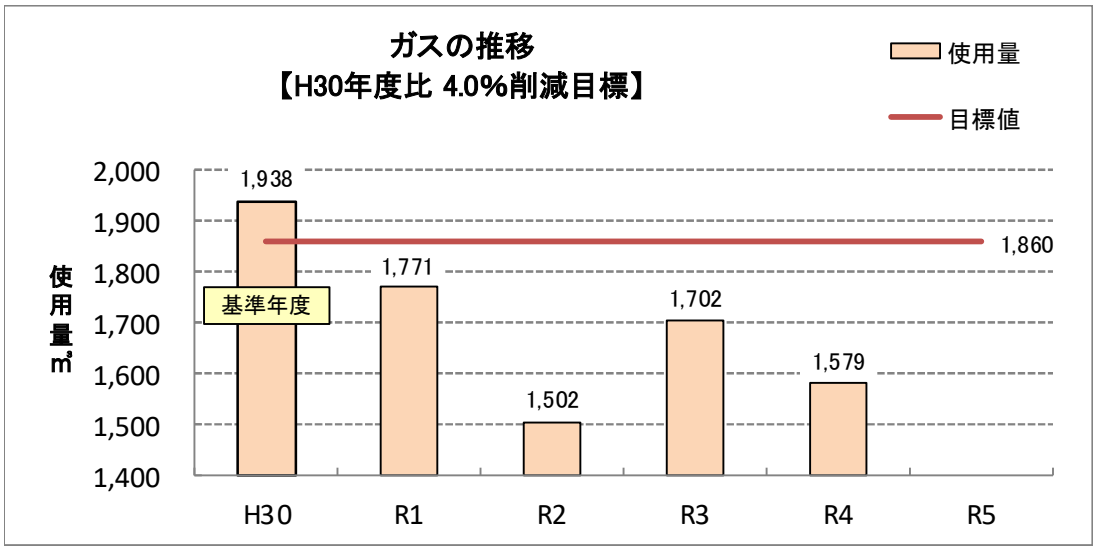
３．調査項目別使用量の推移及び二酸化炭素排出量の推移

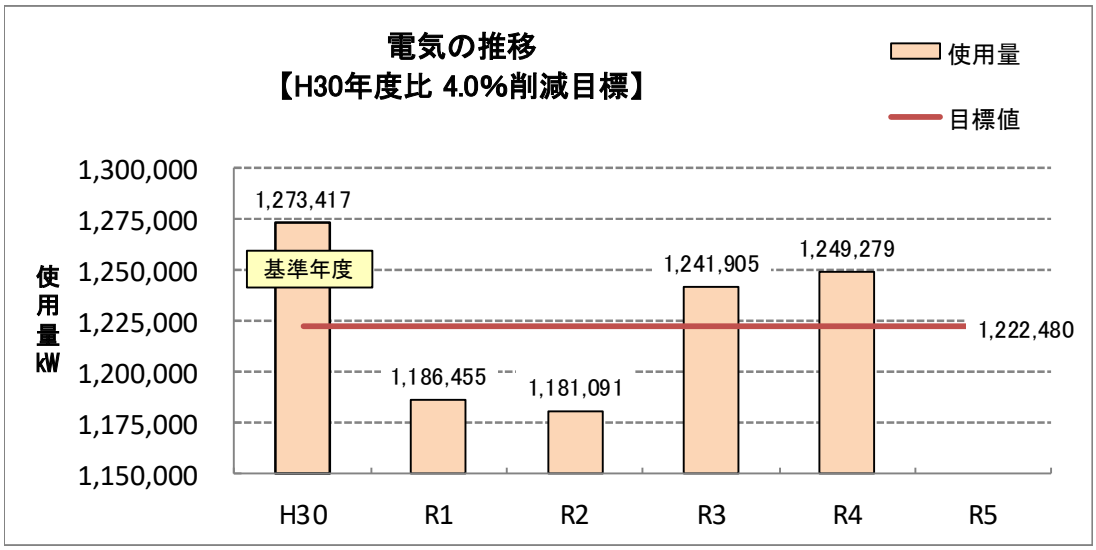

ガソリンの推移
【H30年度比 4.0%削減目標】
使用量
目標値
使用量ℓ
17,000
16,000
15,000
14,000
13,000
12,000
11,000
10,000
基準年度
16,300
14,731
11,786
12,369
12,748
15,648
H30
R1
R2
R3
R4
R5

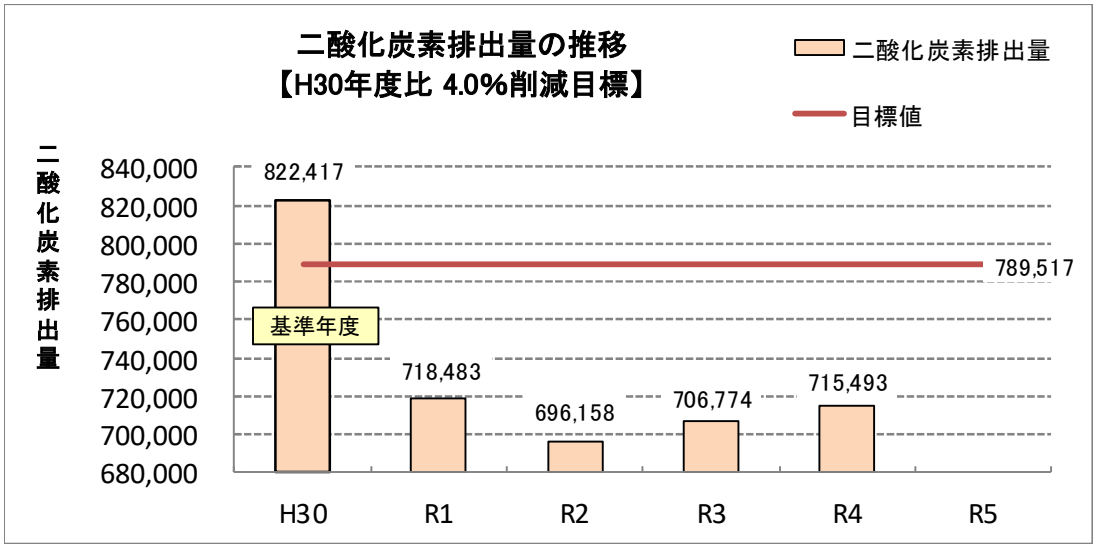

灯油の推移
【H30年度比 4.0%削減目標】
使用量
目標値
使用量ℓ
8,000
7,500
7,000
6,500
6,000
5,500
5,000
4,500
4,000
基準年度
5,871
5,215
7,346
4,646
5,585
5,636
H30
R1
R2
R3
R4
R5


軽油の推移
【H30年度比 4.0%削減目標】
使用量
目標値
使用量ℓ
9,000
8,500
8,000
7,500
7,000
6,500
6,000
基準年度
7,891
7,976
6,659
8,330
7,044
7,575
H30
R1
R2
R3
R4
R5


A重油の推移
【H30年度比 4.0%削減目標】
使用量
目標値
使用量ℓ
42,000
41,000
40,000
39,000
38,000
37,000
36,000
35,000
41,400
35,900
38,100
37,700
38,900
39,744
基準年度
H30
R1
R2
R3
R4
R5


ガスの推移
【H30年度比 4.0%削減目標】
使用量
目標値
使用量㎥
2,000
1,900
1,800
1,700
1,600
1,500
1,400
1,938
1,771
1,502
1,702
1,579
1,860
基準年度
H30
R1
R2
R3
R4
R5


電気の推移
【H30年度比 4.0%削減目標】
使用量
目標値
使用量kW
1,300,000
1,275,000
1,250,000
1,225,000
1,200,000
1,175,000
1,150,000
1,273,417
1,186,455
1,181,091
1,241,905
1,249,279
1,222,480
基準年度
H30
R1
R2
R3
R4
R5



Ⅴ　実行計画の推進及び評価、点検、公表

１．推進管理体制

地球温暖化対策の推進のため、実行計画の実効性を確保し、取組の効率化を進めるためには、組織的な取組が必要となります。

推進・点検体制の整備として、「田布施町地球温暖化対策推進本部」、「田布施町地球温暖化防止活動推進員」の役割を明確化し、実効性のある対策を推進します。

２．目標達成のための評価

令和４年(2022 年)度の二酸化炭素排出量は７１５，４９３kg-CO_2となっており、基準年度（平成３０年(2018 年)度）の８２２，４１７kg-CO_2に比べ１０６，９２４kg-CO_2の削減（削減率１３．０％）となっています。

項目別の使用料の増減理由については、以下の要因が考えられます。

ガソリンの使用量

基準年度より２２．８％の削減となっています。近年の傾向として、オンライン会議が増え、公用車による出張が減小したことが要因と考えられます。

灯油の使用量

基準年度より４．５％の削減となっています。小・中学校で空調整備が進んだことにより使用量が減少したことが主な要因と考えられます。

なお、保育園は暖房設備のボイラーに灯油を使用しており、換気をしながら運転することにより使用量が増加しています。

軽油の使用量

基準年度より９．４％の減小となっています。児童数の減少により、マイクロバスの運行回数が減小したことが主な要因と考えられます。

Ａ重油の使用量

基準年度より４．７％の削減となっています。給食センターの運営に大きな変更はありませんでしが、職員一人ひとりが「節電」や「燃料使用量の削減」を意識して行動することを実践していることも削減の要因と考えられます。

ガス（ＬＰＧ）の使用量

基準年度より１８．８％の削減となっています。給食センターの稼働や公民館の使用が減少したことが主な要因と考えられます。

電気の使用量

基準年度より１４．２％の削減となっています。２０２２年は、年平均気温が全国的に高く、特に６月下旬から７月初めの気温が高かったため、学校施設での冷房設備の使用に伴う増加があった一方、役場本庁ではクールビズや職員への周知などにより使用量は減少し、施設全体での使用量としても減小となりました。

３．推進責任者による評価

次項以降の評点表は、田布施町地球温暖化対策実行計画第４章第１及び第２に基づき、推進責任者が、各課の二酸化炭素排出量削減のための取組を評価・採点し、田布施町地球温暖化対策推進本部（町民福祉課）へ報告したものです。

●項目別の評価方法は下記を目安に設定しました。

- ➢ 積極的に取り組んでいる・・・３点
- ➢ 部分的に取り組んでいる・・・２点
- ➢ 取組が不足している　・・・１点

【１．省エネルギーに関する取組】

温室効果ガス排出量の大部分を占める二酸化炭素（CO_2）の削減に、最も効果が期待できる取組みが省エネルギー対策です。電気製品やＯＡ機器、公用車等の二酸化炭素排出の要因となっているものは、町の事務及び事業のあらゆる場面で使用されているため、その使用に際して配慮をすることによって発生の抑制を図ります。

（１）電気・水使用量の削減

内容	評価
冷暖房の温度設定は、室温が冷房は２８℃、暖房は２０℃になるよう設定する。	２．０
緑のカーテンやブラインドを有効に利用し、エアコンの節電に努める。	２．３
クールビズ・ウォームビズを推奨する。	３．０
長時間使用しない電気機器はプラグを抜き、待機電力の削減に努める。	２．１
コピー機・プリンター等、省エネモードの利用を心がける。	２．５
長時間の離席時は、業務の支障にならない範囲でパソコンの電源を切る。	１．９
始業前・昼休み・残業時は業務に支障のない範囲で消灯を心がける。	２．５
廊下、階段、トイレ等、共用部分の照明について、未使用時は消灯を心がける。	２．９
水道使用時は節水を心がけ、蛇口をこまめに閉める。	２．９

（２）燃料使用量の削減

内容	評価
給湯器を適正な温度に調節して使用する。	２．８
ガスコンロの使用時間の短縮に努める。	２．８

（３）ガソリン使用量の削減

内容	評価
エコドライブを心がける（ゆっくり発進、経済速度遵守、不要物を積まない等）	２．７
ハイブリッド車の利用に努める。	２．７
目的地が同じ場合など、できる限り相乗りを心がける。	２．４
短距離移動の場合は車の利用は控える。	１．９
定期的な点検・整備を実施する。	３．０
ノーマイカーデーに積極的に取り組む。	１．８

【２．省資源に関する取組】

（１）用紙類使用量の削減

内容	評価
ミスコピー用紙・使用済み封筒の再利用に努める。	２．４
電子メールや庁内ＬＡＮを有効利用する。	２．７
会議資料配付時など、余剰部数が出ないようにする。	２．８
資料作成において、ページ数が多い場合は原則両面印刷とする。	３．０

【３．環境に配慮した製品（グリーン購入）の推進】

グリーン購入とは、品質や価格だけでなく環境のことを考え、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを、環境負荷の低減に努める事業者から優先して購入する取組です。

環境ラベル貼付商品（例：エコマーク）などの環境に配慮した商品を購入することによって、間接的に温室効果ガスの発生を抑制することができます。

（１）グリーン購入の推進

内容	評価
環境負荷の小さい事務用品の購入に努める。	２．５
リサイクルしやすい製品の購入に努める。	２．５

【４．廃棄物の減量化、リサイクルに関する取組】

（１）ごみの減量化とリサイクルの推進

内容	評価
ごみの分別を徹底する。	３．０
事務用品や電化製品の購入を控え、できる限り修理・長期使用を心がける。	２．６
使用済みのトナーやカードリッジは業者に回収を依頼する。	３．０

事務用品購入時は、できるだけ包装されていない詰替え可能な物を選ぶ。	２．６
エコキャップ回収活動を推奨する。	３．０
総　合　評　価　（８４点中）	７２．４点

●田布施町地球温暖化対策推進本部事務局により、各項目を点検し目標達成項目及び要改善項目を下記に示します。

◎目標達成項目（１００％達成：評価平均３．０点）

○ クールビズ・ウォームビズを推奨する。
○ 定期的な点検・整備を実施する。
○ 資料作成において、ページ数が多い場合は、原則両面印刷とする。
○ ごみの分別を徹底する。
○ エコキャップ回収活動を推奨する。

◎要改善項目（７０％以下の達成率：評価点２．１点以下）

○ 冷暖房の温度設定は、室温が冷房は２８℃、暖房は２０℃になるよう設定する。
○ 長時間使用しない電気機器はプラグを抜き、待機電力の削減に努める。
○ 長時間の離席時は、業務の支障にならない範囲でパソコンの電源を切る。
○ 短距離移動の場合は車の利用は控える。
○ ノーマイカーデーに積極的に取り組む。

４．公表

実行計画の第５章に基づき公表するとともに、実行計画の内容を改めて職員に周知し、積極的な環境保全に向けた取組を実施します。職員への周知の方法については、課長会議や庁内ＬＡＮを有効に活用し、情報提供、意識啓発等を行っていきます。

また、民間需要及び事業所等の模範となる対策を率先的に実施していくため、田布施町のホームページなどで広く公表していきます。

評価項目については、推進責任者による項目別の採点（２８項目）を継続し、田布施町地球温暖化対策実行計画に反映していけるトレンド項目を設定していきます。評価方法についても、今後も田布施町地球温暖化対策推進本部事務局において、きめ細かな評価・点検を実施し、より精度の高い使用量及び排出量の調査・分析を行っていきます。

Ⅵ　おわりに

本町ではこれまでに、CO_2削減県民運動の一環として、緑のカーテンの設置、毎月のノーマイカー運動、夏季と冬季のライトダウンキャンペーン、スピードダウン運動などの施策を実施し、その他にも環境負荷の少ない製品の購入、各課でエアコンの温度調整を可能にするための施設の改修等、様々な取組を行ってまいりました。

「平成３０年(2018 年)度を基準年度とし、令和５年(2023 年)度までに温室効果ガ

スを４．０％削減する」という目標について、１年目は１２．６％、２年目は１５．４％、３年目は１４．１％、４年目は１３．０％の削減となりました。

大きな要因として、新型コロナウイルス後のオンライン会議の普及により、出張が減小し、燃料使用量が減少したこと、本町の排出割合の３/４を占める電気使用に伴う二酸化炭素排出量を算出するための排出係数が減少した影響が大きいと考えられます。

今後も、職員一人ひとりが「節電」や「燃料使用量の削減」を意識して行動することが、一層重要になっていきます。来年度以降もこれまで以上に研究・情報収集を進め、取組内容を見直し、町の事務・事業により排出される温室効果ガスの抑制に取り組んでまいります。

田布施町地球温暖化対策推進本部事務局
（田布施町町民福祉課環境係）